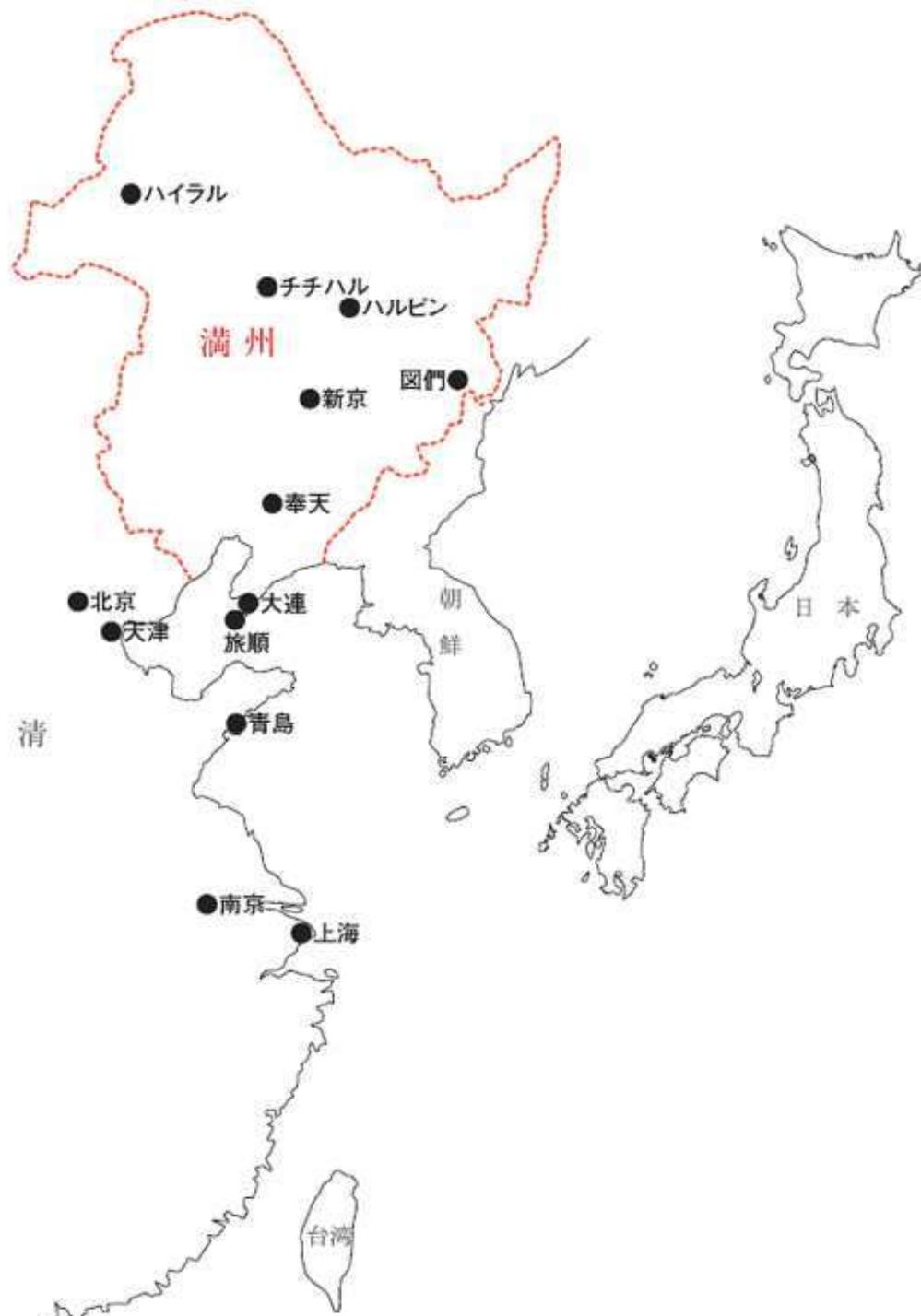


別所憲法9条の会

満蒙開拓、背中あわせの被害と加害

2020年3月2日

長池公園自然館 第一会議室



1. 満蒙開拓とはなんだったのか

その目的

- 疲弊した農村の救済
- 皇土朝鮮の防衛
- 大戦に備えた食糧確保

その宣伝

- 広大な沃土が待っている
- 20町歩(約6万坪)の地主
- 大日向村というモデル

そのスローガン

- 五族協和
- 王道楽土

その実態

- 補助金で分村を勧誘
- 日本人による満州国支配
- 現地住民の土地を収奪
- 関東軍は南方に配転
- 成人男性を根こそぎ招集

戦時中のプロパガンダ・ポスター

拓け満蒙!
行け満洲へ!

資格 三十三歳以下(満蒙移住者として)
身体強壯の者

政府の補助 一戸に付一〇〇〇圓 其他諸種の便宜あり

拓務省 移住募集

締切 七月十五日

申込所 町村役場、又は軍人分會

満洲移住協會

東京日比谷 大塚五反田

北満の沃野へ!!

満蒙開拓青少年隊

長野県 長野市

説明書あり郵送請求へ

大日本は神國なり

三紀二千六百年記念

神國民の家庭には必ず神棚を設けず
伊弉諾伊弉册を祀るべし



神奈川縣神戶市



勝つために

国民貯蓄

國民貯蓄獎勵高

生命保險社會協會

2. 満蒙開拓を推進した主な人物と組織

- 石原莞爾…関東軍参謀、満州事変の首謀者。「世界最終戦論」など軍事思想家で、1927年の「現在及び将来に於ける日本の国防」に満蒙領有構想が見られる。
- 東宮鉄男…関東軍将校、張作霖爆殺事件の実行者。満州移民を推進した中心人物で、満蒙開拓移民の父とよばれる。
- 加藤完治…教育者、農本主義者。茨城県に国民高等学校を設立し、これに隣接して満蒙開拓青少年義勇軍訓練所を開設。
- 那須皓…農業経済学者。東京帝大教授。
- 橋本伝左衛門…農業経営学者。京都帝大教授。
- 杉野忠夫…報国農場の発案者。後に東京農大拓殖学科長。
- 石黒忠篤…農林官僚、後に農林大臣。

- 拓務省…1929年創設、42年に大東亜省に編入。
- 農林省…1943年、商工省の一部を引き継ぎ、農商省となる。
- 文部省
- 都道府県庁、市町村役場
- 学校、教育会

満鉄＝南満州鉄道の略称

- 日露戦争の結果、ロシアから譲渡された東清鉄道の南満州支線（長春—大連）
- ロシアから「鉄道附属地」の土地所有権・行政権とともに譲渡された
- 1906年に特殊会社（国策会社）設立
- 鉄道附属地＝鉄道に沿って設定された治外法権の土地
- ここに道路、公園、上下水道、消防組織、学校、病院を整備（政府並み組織）
- 撫順炭鉱の採掘、鞍山製鉄所、港湾の運営、ホテル等を経営

中国の状況

1911年 辛亥革命(清朝→中華民国)

各地に軍閥割拠、統一国家とはほど遠い状態

1922年～ 第1次北伐(孫文)…統一戦争

24年～ 第2次北伐(孫文)

26年～ 第3次北伐(蒋介石)

27年 山東出兵

28年 易幟(えきし)…張学良(張作霖の子)が国民党に帰順



関東軍、満州利権を失いかねないという焦燥

3. 満洲に渡った開拓民

- 農業移民(約27万人)
- 開拓団数(約800)
- 満蒙開拓青少年義勇軍(約8万6千人)
- 試験移民(武装移民…農業経験のある在郷軍人。
- 分村・分郷移民…農村からの集団移民。
- 満蒙開拓青少年義勇軍…15～18歳の青少年。
- 自由移民…国や県、市町村募集以外。
- 勤労奉仕隊…農閑期の春から秋の数ヶ月に派遣。
- 帰農開拓団…農業以外の職種から満洲に移民し、農業に転業。

- 抵抗する地元農民を強制的に囲い込み、彼らの農地を「無人地帯」に指定、約2000万ヘクタールを安価に買い上げ、入植地とした。
- 満洲国は日本の外地(本土の延長)ではなく、日本政府が承認した外国であったが、移民たちは日本国籍のまま日本人社会の中で生活していたため、日本人という意識が強く、現地住民と交流する事はあっても同化はしなかった。
- 満蒙開拓青少年義勇軍は「兵士予備軍」という位置づけで、農業実習とともに軍事教練を課され、軍事的観点から、主にソ連国境に近い満州北部に入植させられた。42年以降、戦局の悪化に伴う兵力動員で成人男性の入植が困難となり、青少年義勇軍が移民の主軸となった。

日中戦争

- 1937年7月7日 盧溝橋事件 → 北支事変へ拡大
- 全面的武力衝突
- 双方とも「宣戦」はしていない…米の中立法(経済制裁・武器供与停止)適用を避けるため
- 日本は「支那事変」と呼ぶ
- 戦争でないのに「大本営」設置
- 同年11月18日、戦時大本営条例を廃止 → 軍令で大本営公示、総力戦体制

満蒙開拓の真実 国策移民の実像と悲劇

2011年・満蒙開拓平和記念館、20分

(映像DVDの貸し出しあり)

4. 満洲帝国崩壊時の軍と政府の動き

1944年

7月 9日 サイパン陥落

9月18日 大本営、関東軍主力を通化省に移動
ソ連軍侵攻想定した作戦命令

1945年

3月 3日 マニラ陥落

4月 5日 ソ連、日ソ中立条約不延長を通達

5月 7日 ドイツ降伏

30日 満鮮方面対ソ作戦計画要領

大連—新京—図們を最終防衛線

静謐作戦

7月 1日 参謀本部、ソ連の武力発動を8月頃と予想

7月10日 根こそぎ招集

8月 2日 ラジオ放送「関東軍は盤石。開拓団諸君は安んじて生業に励むがよろしい」

8月 9日 大本営「戦後将来の帝国の復興再建を考慮し、なるべく多くの日本人を大陸の一角に残置」

8月10日 大本営「満洲全土放棄も可」

8月14日 外務省「三カ国宣言受諾ニ関スル在外現地機関ニ対スル訓令」

8月30日 駐満大使、在満日本人の内地送還を懇願

8月31日 日本政府、改めて「現地土着方針」を指示

1946年

3月16日 GHQ「引揚に関する基本指令」
軍人引揚を優先

5. 満蒙開拓がもたらしたものの

現地住民の犠牲…多数が土地を追われ、生活を奪われ、亡くなった

- 土龍山事件(依蘭事変)…1934年3月、土地収用に対して起きた現地住民による武装蜂起。5月、関東軍が鎮圧。

開拓民の犠牲(約8万人)…栄養失調、発疹チフス等の伝染病、ソ連軍による虐殺、現地民による襲撃、沖縄戦より多い集団死

- 8月12日、ソ連軍と現地民に追い詰められた哈達河開拓団の421人が麻山で自決。
- 8月14日、興安街でソ連軍戦車部隊が1000人以上を虐殺。
- 8月17日、暴民に襲われた高橋開拓団の約300人が呼蘭河に投身自殺。
- 8月24日、ソ連軍と暴民に追いつめられた鳳凰開拓団216人が自決し、全滅。
- 8月27日、佐渡開拓団跡地にたどり着いた避難民が、ソ連軍の偵察機を焼き、トラックに対する射撃の報復として1400人以上が殺害される。
- 8月27日、暴民に襲われた亞州白山郷開拓団の365人が自決。
- 8月27日、ソ連軍によって集団レイプされ続けていた日満パルプ敦化工場の女性社員や家族30余人が青酸カリで集団自決。
- 9月17日、瑞穂開拓団の495人が服毒自殺。
- 黒川開拓団は保護と引き替えにソ連軍将校に未婚女性による「性接待」を提供。(西隣の来民開拓団270人は集団自決)

シベリア抑留(約57万5千人、うち約5万8千人が死亡)

残留婦人、残留孤児

永住帰国者、2万余人…いまだに祖国に帰れぬ残留者たち、終わらぬ肉親さがし

帰還者たちに対する「満州帰り」「満州乞食」という侮蔑
→ 再び国内の開拓地へ

拒まれる遺骨収集、慰霊

6. 拓魂公苑(多摩市)は慰霊の場なのか

1963年、社団法人全国拓友協会による開設

碑に刻まれた「拓魂」は加藤完治による揮毫

以後、毎年4月第2日曜に「拓魂祭」を開催

2001年、東京都に移管





満蒙開拓殉難者之碑建設の由来

この碑は 満蒙の曠野に無慘に散った八万の開拓者と その人々を守りつゝ自らも逝った関係者多数の御霊が合祀してあります

昭和七年（一九三二年）はじめられた 満洲の開拓事業は 満蒙の天地に 世界に比類なき民族協和の平和村建設と 祖国の防衛という高い日本民族の理想を実現するために 重大国策として 時の政府により行われたものであります

凍土をおこし 黒土を耕し 三十万の開拓農民は 日夜 祖国の運命を想いながら黙々と開拓の鋤を振いました 然し その理想の達せられんとした昭和二十年の夏 思わざる祖国の敗戦により 血と汗の建設は一瞬にして崩れ去り 八万余の拓土と関係者は 満蒙の夏草の中に露と消えていきました そして そこには未だ一輪の花も供えられ たことはないのです

ここに同志相図り 水清きこの多摩川の丘に一碑を建て、祖国と民族のために 雄々しく不屈の開拓を闘い抜き そして散っていった亡きこれらの人々の御霊をお祀りすると共に 再びかかる悲しみのおこることなき世界の平和の実現を心からお祈りせんとするものです

慰霊塔—戦没者祭祀の起源

日露戦争の戦没兵(約8万)のうち、郷里に送還できなかった遺骨を遼陽・旅順・安東・奉天・大連に集約し、忠霊塔とした。

この後、各地に忠霊塔が建立されるようになった。

忠霊＝忠義のために命を落とした人の霊。

(忠霊塔＝戦死者の霊を祀った塔)

慰霊＝死んだ人や動物の靈魂を慰めること。

満蒙開拓平和記念館



再現された開拓団住居



体験者の証言

7. まとめ—責任は何処に？

- 開拓民は、誤った国策の被害者
- 現地住民にとって、開拓民は土地を奪い、生活を破壊した加害者



このような政府を選んだのはだれか？
(軍をおそれ、反対者を攻撃した国民)

“if”を論じてても歴史は変わらないが、歴史から学ぶためには、比較対象としての“if”を考えることが不可欠。

ありがとうございました